

認知心理学（旧カリ用）

[講義] 第1学年 前期 必修 1.5単位

《担当者名》橋本竜作 hashi-ryu@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

認知心理学は人が世界をどのように認識し、行動するのかについて、情報処理モデルをもとに実験を行い、そのモデルの検証を通じて、人の心理過程に接近しようとする学問である。この科目では、人が感覚を通じて世界をどのように知覚し、認知するか、そして情報をどのように選択し処理するか（注意）を学びます。次に情報をどのように記憶し、思い出すのか、どのように思考し、知識を構築するのか、言語の情報処理や対人認知についても学びます。

【学修目標】

リハビリテーションの対象となるひとの障害によって生じる心理および行動障害を理解するために、その基礎となる健常の知覚/感覚・記憶・注意・問題解決などの認知過程について知る。

- (1) 感覚・知覚過程の基本概念と主要理論を説明できる。(感覚の種類や特性、情報処理を含む)
- (2) 認知過程の基本概念と主要理論を説明できる。(注意、記憶、言語、推論、問題解決を含む)
- (3) 思考や知識の表象・構造と主要理論を説明できる。
- (4) 感情、情動、動機づけの基本概念と主要理論を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	心理学の歴史	講義ガイダンス、心理学の歴史を概観する。	橋本竜作
2・3	感覚・知覚・認知	感覚の種類と、知覚と形態認知を学ぶ。	橋本竜作
4	注意	注意の分類を知り、その測定法を学ぶ	橋本竜作
5・6	記憶	記憶の過程と分類、その測定法を学ぶ。	橋本竜作
7	思考・知識	問題解決と推論、概念（知識）の理論を学ぶ。	橋本竜作
8	言語	言語処理と関連知識を学ぶ。	橋本竜作
9	感情・情動	基本的な理論（末梢起源説・中枢起源説等）を学ぶ。	橋本竜作
10	動機づけ	動機づけと、その役割について学ぶ。	橋本竜作
11	対人認知	印象形成、認知的不協和理論等を学ぶ	橋本竜作
12	まとめ	小テストの解説を通じて内容の定着を図る。	橋本竜作

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

小テスト20%、定期試験80%

【教科書】

山田弘幸 編著 「言語聴覚士のための 心理学 第2版」 医歯薬出版株式会社 2020年

【参考書】

中川 明仁 編 「心理学・臨床心理学」 メジカルビュー社 2024年

【学修の準備】

予習は教科書の関連する章・節を熟読しておくこと（80分）

復習は単元毎の小テストに回答し、現象や専門用語の意味を理解・暗記すること（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

公認心理師